

魅力ある学校づくりに向けた14の取組の検証【総括】

1 県立高等学校あり方検討会からの提言（R3.3）

令和2年度に設置された県立高等学校あり方検討会では、新しい時代に対応した「すべての高校生が夢に挑戦できる魅力ある県立高校」を実現するための取組について議論し、7つの方向性と14の具体的な取組について提言が取りまとめられた。

すべての高校生が夢に挑戦できる魅力ある3つの県立高校像

- I 「夢を実現する力」を育む学校
- II 地域で夢を拓げ、地域の未来を支える人材を育てる学校
- III 夢への挑戦を支える学校

魅力ある学校づくりに向けた7つの取組の方向性

- (1) 各学校の特色や強みを生かした取り組みを重点的に推進
- (2) 高校間連携や多様なパートナーとの連携による取組を推進
- (3) 地域の期待に応える魅力ある学校づくりの推進
- (4) ICTの活用による学びの保障、教育の充実
- (5) 小規模な学校の活性化
- (6) グローバルに活躍する人材の育成
- (7) 取組を推進するための環境整備

魅力ある学校づくりに向けた14の取組

- ①熊本スーパーハイスクール（KSH）構想
- ②先進的な科学技術やIT技術を学ぶ学科等の設置検討
- ③国際バカロレア認定校・学科等の設置検討
- ④総合学科やその他の社会や地域、生徒のニーズに応える学科等の設置検討
- ⑤高大連携等の推進
- ⑥「県立高校 One Team プロジェクト」（高校間連携）
- ⑦「地域との連携による未来人材共育プロジェクト」
- ⑧遠隔授業等による小規模校の教育の充実
- ⑨高校のICT教育日本一の具現化
- ⑩「進学サポートシステム」構築
- ⑪少人数学級編制の検討
- ⑫学習用パソコン（1人1台）導入、大型掲示装置、ネットワーク環境の整備等
- ⑬県立学校施設長寿命化プランによる施設・設備の充実
- ⑭入試制度のあり方の検討

2 主な成果

- (1) 全ての県立高校のスクール・ミッション※1、スクールポリシー※2を策定・公表し、各校の特色を明確化した。(R4.3)【取組①】

※1: 各校の存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき学校像を県教育委員会が示したもの

※2: スクール・ミッションや学校教育目標を踏まえ、特色・魅力ある教育の実現に向けて各校が策定した3つの方針(グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)

- (2) 熊本スーパーハイスクール(KSH)構想により、各校をイノベーションハイスクール等の県指定校、スーパーサイエンスハイスクール等の国指定校とすることに加え、各校の特色によって区分し、各校にて魅力化・特色化事業を実施した。【取組①】

＜県指定校 (R6:45校 48課程)＞

| | |
|--|---|
| イノベーションハイスクール | 13校 |
| ～県立高校のフロントランナーとして、より良い未来の創造に向けた変革を起こす資質・能力などの育成を目指す～ | 済々黌、熊本、第一、第二、熊本西、熊本北、東稜、玉名、大津、八代清流、水俣、人吉、天草 |
| クリエイティブハイスクール | 17校 |
| ～自治体や関係団体等との連携による探究的な学びを通して、持続可能な地域社会づくりに貢献する人材の育成を目指す～ | 岱志、菊池、阿蘇中央、高森、甲佐、松橋、牛深、上天草、球磨中央、鹿本商工、北稜、鹿本農業、翔陽、矢部、天草拓心、小国、人吉五木分校 |
| プロフェッショナルハイスクール | 14校 |
| ①リーディング型 ～産学官連携により、将来のリーダーとしての責任感・使命感・チャレンジ精神等を身につけることを目指す～ | 熊本商業、熊本工業(全)、熊本農業、八代工業 |
| ②実践研究型 ～産業界等との連携により、地域や社会の健全で持続的な発展を担う力を身につけることを目指す～ | 御船、八代東、玉名工業、小川工業、天草工業、菊池農業、八代農業、芦北、南稜、球磨工業 |
| エンパワーメントハイスクール | 2校(4課程) |
| ～学び直しをはじめとした個別指導の充実を図り、社会で活躍するために必要な力を育成することを目指す～ | 湧心館(全・定・通)、熊本工業(定) |

- (3) 各校の特色を小中学生や保護者等にPRするため、情報発信を行った。【取組①】
- ・「KSH全体発表会～県立高校 学びの祭典～」の開催(R4～)
 - ・ホームページ「県立高校検索ガイド」の新規開設(R3～)
 - ・パンフレット「県立高校全50校徹底ガイドブック」の全中3年生への配付(R4～)
 - ・SNS(Instagram、Facebook、Twitter、Tiktok)の新規開設(R4～)

(4) 高森高校にマンガ学科 (R5～) を設置し、入学出願者が大幅に増加した。

その他、菊池高校普通科未来探究コース・地域探究コース (R4～) や天草工業高校情報技術科 CG 系列 (R6～)、水俣高校半導体情報科 (R7～) の設置など、地域と連携した最先端の学びや探究的な学びの導入を進めた。

また、地域の企業と連携した産業人材育成のため、八代工業高校においてマイスターハイスクール事業※3を実施し (R3～)、その成果の横展開に向けたマイスターハイスクール普及促進事業 (新規拠点校 4 校指定) ※4に着手した (R6～)。【取組②④】

・高森高校 マンガ学科／普通科 グローカル探究コース

入学志願者数 R4:20 人 ⇒ R5:98 人 R6:117 人 ※定員はいずれも 80 人

※3：産業界と専門高校が一体となり、地域産業の持続的な成長を牽引する職業人材を育成する事業

※4：地域における産業界等と専門高校の連携体制構築を通じた産業人材育成のための教育充実を目指す事業

(5) 県立八代中学校が国際バカロレア教育プログラム※5 のミドル・イヤーズ・プログラム (MYP) ※6 の候補校に認定され、R6 年度入学生から MYP の試行を開始し、八代高校へのディプロマ・プログラム (DP) ※7 導入に向けて着実に前進した。【取組③】

※5：国際バカロレア機構 (本部ジュネーブ) が提供する、国際的な視野を持った人材を育成するための教育プログラム。多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としている。

※6：11～16 歳が対象。これまでの学習と社会のつながりを学ぶプログラム。高度な思考力を重視することで、生徒が適切な判断力を養いながら、広がる関心や自己と世界に対する認識を探究するプログラム。

※7：16～19 歳が対象。所定のカリキュラムを 2 年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入試資格 (国際バカロレア資格) が取得可能なプログラム。

(6) 高大連携や高校間連携において、多様な連携先の充実により特色ある学びを導入した。

【取組⑤⑥】

・県立高校 One Team プロジェクト (R3～、延べ 266 校 77 プロジェクト)

・熊本サイエンスコンソーシアム (KSC) ※8 と大学の高大連携・接続に関する協定を締結し、大学教員による探究活動の支援を実施 (R4～、延べ 48 件、1,087 人)

協定：崇城大学 (R3.12)、熊本保健科学大学 (R4.9)、熊本大学 (R5.9)

※8 スーパーサイエンスハイスクール及び理数系学科コースをもつ高校で構成

・高大接続入試 (高校における探究活動の成果を評価する総合型選抜) の導入により、高校から大学までをシームレスにつなぐ科学技術人材育成システムを構築 (崇城大学 R5 年度入試～)

(7) クリエイトハイスクール指定校 17 校において、地域と連携したコンソーシアムを設置した。(R4～) 【取組⑦】

(8) CORE ハイスクールネットワーク事業等により遠隔授業の手法を構築するとともに、遠隔授業や他地域の生徒との交流を通して小規模校の生徒が多様な価値観に触れる機会を創出した。(R3～) 【取組⑧】

・CORE ハイスクール実施校：第一高校、小国高校、牛深高校、球磨中央高校 (R6:5 科目)

3 主な課題

(1) 続く定員割れに対する対応

提言に基づき、1学級（40人）以上の定員割れが一定期間継続している学校において学科改編による魅力化の取組と併せた学級減を実施してきたが、少子化による中学校卒業生数の減少数に対して十分ではなかったため、学科改編を行った学校の定員充足率を改善するまでには至っていない。

以前から指摘されているとおり、定員充足率が低下している高校においては、次のような課題がある。

- ・高校の入学選抜の倍率の低下が中学生の学力や、入学選抜に向けての学習意欲の低下に影響しているとの指摘がある。
- ・受検者がほぼ全員入学している高校では、生徒間の学力差が大きくなり、入学後に習熟度別指導などの多様な指導体制が求められる。
- ・定員に対して入学者が少ないと、教員定数も減少するため、地歴公民科や理科、芸術等において生徒の興味関心に応じた選択科目を十分に開設できないなど、教育課程の編成に支障が生じる。
- ・定員割れが続く高校では、学校の過小評価につながり、さらなる定員割れを招いているとの指摘もある。

今後の中学校卒業生数の推移をみれば、令和10年には16,000人を下回り、その10年後の令和20年には約4,500人減少することが見込まれており、定員の確保がより一層困難となることが予想される。

<県立高校（全日制）定員充足率>

- ・熊本市内：R2:97.3% R3:95.8% R4:97.3% R5:100.4% R6:97.6%
- ・熊本市外：R2:69.0% R3:63.2% R4:64.0% R5:71.1% R6:68.3%

(2) 効果的な高校魅力化の取組

高校魅力化の取組には、地元自治体や地元企業、大学など多様なパートナーとの連携が欠かせず、各校の課題を地域社会と共有し、一体となって魅力化に取り組む体制づくりをさらに進める必要がある。

また、連携先が増加するほど教職員の負担も増加している現状があり、教職員の働き方改革を進めながら連携を充実させるための方策が必要である。

併せて、少子化が進む中においても教育環境を充実させていくため、現在は4校で実施している遠隔授業の拡充やその他の方策についても検討が必要である。

さらに、魅力化の取組の定量的・定性的な評価が不十分なことに加え、中学校の生徒や保護者・教職員、地域に十分に各校の魅力が十分に伝わっていない部分がある。